

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

591

企画事業

[長期総合計画]

分野別目標	4	誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち
政策	3	豊かな暮らしを支える住環境の整備
施策	2	河川・水路の整備
取組方針	3	水辺空間を生かしたまちづくり

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計		一般会計	
	款		総務費	
	項		総務管理費	
	目		企画調整費	
	大事業		企画調整事業	
	中事業		企画事業	

事業種別	継続	関連個別計画	水辺ビジョン		
事業年度	平成28年度 ~ 令和2年度	担当課・担当課長・Tel	政策調整課	建島 克佳	435-1013
事業実施の根拠法令	河川法	関連課	まちなみ景観 都市再生 河川港湾 商工振興 公園緑地		

1 事業内容

	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)	全体事業概要				
事業目的	市堀川及びその周辺の水辺空間の利活用を推進することで、水辺の魅力を向上させるとともに、本市の賑わいを創出する。また、ほかの水辺に関連する事業と連動することで、回遊性を高め、まちの中心核である和歌山城周辺に向かう新たな回遊軸を創出する。	かつて和歌山城の外堀であった市堀川はまちなかの歴史的な水辺資源と考えられるが、現在は川と街が分断している。この資源の魅力を検証し、再発見することで市堀川に対する社会的関心を高め、水辺空間や周辺の道路空間の活用方法として、まちの中心核へ向かう新たな回遊軸とすることで、現在計画されている和歌山城ホール、新市民図書館、県立医科大学薬学部、点在する公共不動産や民間のプロジェクトなど、賑わい創出のため結節点を充実し、市内の人々にとって魅力にあふれた、住みたく訪れたいまちづくりを行うための取り組み。市駅周辺から、ぶらくり丁までの回遊性を高め、賑わいづくりや域内消費を促せるよう、市堀川の河川空間を活かしたまちづくりを行う。				
事業内容		平成29年度 ・社会実験の実施に係る業務委託 ・水辺会議の開催 ・水辺交流会の開催	平成30年度 ・社会実験の実施に係る業務委託(平成28年から30年) ・水辺会議の開催 ・プロモーションの実施 ・水辺交流会の開催 ・水辺ビジョンの策定	平成31年度 ・水辺のまちづくり促進補助金(補助率1/2・4,000千円) ・夜間景観形成に係る業務委託(4,000千円) ・中間組織形成の検討	令和2年度 (都市再生課及びまちなみ景観課へ移管)	令和3年度

2 事業コスト

事業費等(千円)	平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和2年度		令和3年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	8,500	8,302	8,000	8,000	8,000	4,803	0	0	0	0
伸び率(%)	0%	9.8%	△5.9%	△3.6%	0%	△40%	△100%	△100%	0%	0%
人件費	正規職員	9,173	18,026	11,509	11,749	16,833	16,914	0	0	0
	正規職員以外	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	9,173	18,026	11,509	11,749	16,833	16,914	0	0	0
国庫支出金	3,500	3,500	4,000	4,000	4,000	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1,500	1,329	0	0	0	0	0	0	0	0
一般財源(税等)	3,500	3,473	4,000	4,000	4,000	4,803	0	0	0	0
所要人数(人)	正規職員	1.15	2.26	1.44	1.47	2.09	2.10	0.00	0.00	0.00
	正規職員以外	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
主な予算内訳	委託料4,000千円、負担金、補助金及び交付金4,000千円									

3 目標及び実績

	指標名	単位		平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度
活動指標	水辺イベント数	回	目標値	1	1	1		
			実績値	1	1	0		
			達成度(%)	100%	100%	0%	%	%
活動指標	民間事業者の河川占有区域利用数	回	目標値		2	2		
			実績値		3	2		
			達成度(%)	%	150%	100%	%	%
成果指標	わかやま水辺ビジョンの策定(平成30年度策定) かわまちづくり計画の策定	件	目標値		1	0		
			実績値		1	0		
			達成度(%)	0%	100%	0%	%	%
成果指標			目標値					
			実績値					
			達成度(%)					

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標ほどの程度達成しているか		達成している (90%以上)	○	おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正		負担は求められない	○ 見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実		○		
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	市堀川などまちなかの内川については、民間による活用の機運などが高まりを見せており、又河川敷地占用許可準則の改正などの規制緩和やまちづくり計画の策定などの制度拡充など、国の河川活用の手法が出揃いつつある。本市の中心市街地を流れる市堀川などの内川の魅力向上を図り、これを官民連携した賑わい創出のアンカーの一つとすることで、市民のまちなかへの愛着を深め、住みたいと選ばれる魅力を高めることが必要だと考えられるため。
見直し・改善内容	更に多くの市民などの参加を促すため、より効果的な周知・情報共有を図っていく。